

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



木  
蓮

初代の心にかえり信仰の喜びを  
深めよう 伝えよう 広げよう  
一、持ち場立場で日々理作り  
一、家族揃って教会参拝  
一、一日一件にをいがけ

立教172年  
5月号



今年も3月30日〜4月1日迄、大教会において笠岡むつみ鼓笛隊の合同合宿を開催させて頂きました。

直轄、福山、高屋、島根と四隊が年に一度、大教会を会場に一堂に会して、夏の子供おぢばがえりに向けて本年の活動をスタートさせる大切な合宿です。特に今年はテーマソングが新しくなり、その歌唱指導等も含めパート練習、合奏練習、又、夜のおたのしみ行事等、有意義な時間を過ごさせて頂きました。

各隊での合宿とは違い、スタッフも幅広いメンバーが集まって下さり、子供達にも行き届いた合宿になったのではないかと思います。

今年も少年会、スタッフ合計百二十名でつとめさせて頂きましたが、来年、再来年と毎年人数が増していく様な合宿を目指しておりますので、隊員、スタッフ共に増員の御協力をよろしくお願ひします。  
(少年会副団長 森本 忠善)

## 笠岡大教会の 春の鼓笛合宿での感想

福富士隊 藤井 成人

ぼくは、今年からドラムに変わったので、中庭で他の人たちと新しい曲『みんなきょうだいおやさ』を練習しました。

ぼくたちスネアは、ぜんぜん上手ではなくて、楽譜を見てずっと練習していました。

でも、先生が声に出して音符を読んでくれたりしてくれたおかげで、だんだん曲らしくなってきました。とても嬉しかったです。

ぼくは、班決めで、三班の班長に選ばれました。班長に選ばれた時は、よしやってやるという気持ちでいたけれど、言うことを聞いてくれなかったり、上手に理解してくれなかったり、いろいろ大変なところがあって、困ったことがありました。でもカウンセラーの先生が次はあれ、次はこれをすると教えてくれたおかげでみんなをまとめることができました。

夜のお楽しみ行事ではいろいろな面白いゲームをしてみんなといっしょに楽しめたと思います。これも先生たちが、考えてくれたおかげだと思います。

先生は、ぼくたちの練習を教えるだけではなくて、楽しいゲームを考えたり、お手伝い、ぼくたちの世話などいろいろやっているの、大変だなーと思いました。

四月一日のお供え演奏は、みんな音もきれいにそろっていたし、ドラムの先生も、ドラムのテンポがいまいくらいだと言ってくれました。

ぼくはいっしょうけんめいたいたしたので、とても嬉しかったです。



とても練習した成果だと思いました。それに聞いてくれている人からもいっぱい拍手がもらえたので、それだけすごい演奏だったのだと分かりました。

この二泊三日の合宿は、とてもがんばった三日間だと思えます。

それと同時に、とても楽しかった合宿でした。来年も行きたいです。

## 少年会おつとめ総会 「ががく」に参加して

芳井隊 佐藤 あおい

昨年の三月に初めて笙を教えてもらいました。今回で教わるのが四回目でした。笙をしたきっかけは、おじいちゃんでした。お兄ちゃんと二人で「ががく」をやってくれるかなと言われたので、お兄ちゃんといっしょに「ががく」をやることになりました。最初は、大きい人ばかりで、あまり指もたりにかったので大変だったけど、みんなやさしくてがんばってみようという気持ちになりました。

今日は少年会おつとめ総会の最初に合唱する曲を練習しました。メンバーは、一番最初に私が笙をしたときの中の二人がきていました。七笛ひちりきなどはする人がたくさんいたけど笙は先生あわせて四人しかいませんでした。

合唱する曲は今までにも三、四回ぐらい練習したことがあります。前よりは自分で少しできるようになったなと思いました。でも先生のようにはぜんぜんできませんでした。

先生は、「笙の音色はすごくキレイだな。」といっていました。私もしかにかキレイな音だなと思いました。それだけキレイな音を出すには笙にいろいろなくふうがあるんだと思います。



本番になると急にちゃんとできるかなど、心配になってきました。昨日まで、私は「分からなくなったらかまえとけばいい。いい。」と言っていたのに、当日になると、昨日いったことがウソみたいでした。合唱が始まって最初らへんはちゃんと分かっていたのにだんだん分からなくなると、とまっていると先生がそれに気づいてくださって拍子をうってくれたり、今はどこをふいているなど教えてくれたおかげでまた、ちゃんとふけるようになりました。そして、全部おわるとようやくホッとしました。次ふくときは、もっと上手になっていれたいと思います。

## 少年会おつとめまなび 総会を終えて

木津和隊 丸山優樹

最近になっておつとめの真の素晴らしさを感じるようになってきました。以前は、自分の家の祭典日を真の心で受け止めさせて頂くことができませんでした。しかし、最近になっておつとめをすることで心がだんだんと澄んでいくことに気づくことができました。そんな立教一七二年、四月一日、笠岡大教会で行われた「少年会おつとめまなび総会」に、九十下り目の手おどりとして参加させて頂きました。

習いごとをしているので家での練習時間もそんなに取ることができず、短時間でよく覚えられたと思います。しかし短時間と分かっているながらも集中して練習できていない日もありました。そんな日は、後味が悪く、まるで心が澄んでいないかのように心の中が気持ち悪かったです。逆に集中して大声でおうたを唱和させて頂きながらの練習は、後がすがすがしい気持ちになり、「親神様も喜んでくださっているだろう」と考えていました。

親神様は勉強やスポーツ、手伝い、そして今回のおつとめとさまざまなことに一生懸命



取り組んでいく子供(人間)が好きなんだと思います。『下手は下手なりに』という言葉があるように下手なことでもその人なりに取り組み、という意味です。好きなものだと一生懸命取り組むことができず、嫌いなことだとどうしてもやる気がでなかったり、途中であきらめたりしてしまいます。しかしそれではダメなのです。どのことにも一生懸命に取り組む子供の姿が親神様は好きなのです。だから、苦手な教科、苦手な食べ物など苦手なものをお作り下さり、その苦手なものを見ても一生懸命、克服しようと頑張る子供の姿を見て喜ぼうとされているのです。



一生懸命して出た失敗は次に活かされますが、一生懸命せずにして出た失敗は次に活かされるどころか大きな失敗となってしまう。だから自分もおつとめだけでなく、勉強、スポーツ、手伝いを一生懸命して失敗は気にせず、前を向いていこうと思います。

今回の「おつとめまなび総会」では一生懸命することの大切さを学びました。来年の経験も大切にして高校を出たら、親神様や家族、そして少しでも多くの人のためになるように、一生懸命、働いていきたいです。



天理教婦人会  
TENRIKYO FUJINKAI



第91回総会



去る四月十九日、初夏を感じるような日射しの中、天理教婦人会第九十一回総会が開催されました。  
婦人会創立百周年に向かう仕上げの年として、約五万五千人の婦人会員の参加のもと盛大につとめられました。

午後は記念行事に替えて「支部のつどい」が開催されました。これは総会でお聞かせいただく真柱様のおことば、婦人会長様のごあいさつをいただいで、その思召を求める場として更に心を揃え、創立百周年への勇んだ歩みを進めさせてい

ただくことを誓い合う場としてつとめられました。

笠岡支部では、午後一時より詰所講堂において四百余名の参加のもと開催され、まず総会でお聞かせ頂いた真柱様のおことば、会長様のごあいさつを基に五名の会員に感話をしていただきました。

続いて支部長様よりごあいさつがあり、「活動方針を素直に実行し、家庭での心づくりを台として全ての婦人会員がおたすけのできるようばくにならせていただき、来年の百周年記念総会には、一人の

会員が一人の方を誘って、おぢばに帰らせて頂きましょう。」と、婦人会員の更なる実働をお促し下さいました。

最後に創立百周年への決意も新たに参加者全員で「よろづよ八首」をつとめさせていただき来年に迎える創立百周年に向かつて活動方針を実行し、また、スローガン達成に日々勇んで歩ませていただき、今の自分よりも一歩でも二歩でも成人させて頂けることを誓い合い閉会としました。

(婦人会常任委員 武内正美)

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌四月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「方」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀詠 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

双方の心定めてさづけの理

▼表紙の絵

福満分教会前会長夫人 福島悦子さん

▼4コマ漫画

大教会 上原元子さん

# お与え下さった台

大教会 浅野 はるえ

主人が単身で境内掛へ伏せ込ませて頂いて早いもので半年がたちました。

九月に大教会長様から御命を頂いて、決心がつくまで長い時間がかかりましたが、大教会長様の暖かい親心ですつと返事を待っていてくださいました。決心がつき返事をしたものの、一年私一人で家庭が守れるのだろうか、いろいろと悩み涙する日もありました。

先日婦人会総会へ参加させて頂き、真柱様、婦人会長様からさまざまなお言葉を頂いた中にも、台についてお聞かせ頂いたお言葉

真柱様「台の脚が均等の長さであれば上に載ったものは転ばないが、一本でもわずかに長短があればどんなに苦心してものを載せようとしても転んでしまうだろう」。

婦人会長様「台は、上に載るものを支えるためには、低く

## 笠岡五人衆四小間劇場 第八回「理由」



つづく

どっしりと安定していることが望ましいのです。言い換えれば、台が動くところにあるじつとしてい

るものまでもが動きます。」。は、今の私のあり方をお話下さっているのかと思

いました。丁度この日は主人が本勤の日で、南西の玄関付近で立哨している姿を見て、子供達も「お父さん頑張ってるね。僕たちも、頑張らんといいね、お父さんのかわりずつと忘れとったけど、お父さんが帰ってくるまで僕がお母さん達守るからね。」と、長男が頼もしい事を言ってくれました。

何度もおちばがえりをさせて頂いていても、今回のおちばがえりほど感動し、感謝したおちばがえりはなかったように思います。

生に「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰って来たのやで、・・・楽しめ、楽しめ、楽しめ。」とお言葉をかけになったそのお言葉が、教祖が私の耳元でささやいてくださっているような、なんとも暖かいぬくもりを感じました。私一人が頑張らねばと、肩に力を入れすぎた気がしました。

私以上に、子供達も台となり、親神様、教祖が転んでしまわない様に長短を合わせてくださっているんだと思いました。私自身が決心し、大教会長様へ返事をしたものの、不足だらけの半年だったような気がしますが、これからの半年は感謝の日々で通らせて頂きたいと思っています。

## 婦人会に参加して

私は教会で育ちましたが、教祖の教えと現実の矛盾が嫌になり、お道から離れ、普通の社会人として仕事をし、一般家庭に嫁ぎ四年半が過ぎようとしています。私が嫁いだ日から義父の介護、不妊治療、夫婦仲の悪化と毎日心身に疲れていました。義父が出直しされ気がつけば、周りの人から「子供はまだ？ お義父さんもういなくなつた事だし、子作りに専念しては？」と、義母の友達で布教所をされている方に「子供が出来ないのは何故か分かる？ 本部の近くに住まわせて頂いているのにお道の信仰を何故しない。子が親を背いているから、親は子を受けてくれないのよ。」と言われました。私は大きなお世話だと聞く耳を持ちませんでした。毎日が苦痛で、悩んでいました。そんな時、妹から「お姉ちゃん、婦人会総会参加しない？」と連絡があり、最初は乗り気ではなかったのですが、家で悶々としているよりはいいかと参加することにしました。

当日はいいお天気の中、真柱様、婦人会長様のお話を聞かせて頂き、午後からは詰所で支部ごとの行事がありました。

笠岡では五人の方の感話を聞かせて頂き

### 鼓笛活動に関わられた 全ての皆様へ

来年1月31日(日)に第10回 岡山教区鼓笛フェスティバル(会場:玉島文化センター)が開催されるに当たり、鼓笛の発展を心より願う上から、岡山教区長様・少年会岡山教区団長先生にもご理解をいただき、このたび次の様な計画をいたしました。

若き世代を盛り上げさせていただく一助になればとも思っておりますので、岡山県内外を問わずふるってご参加いただきたくご案内申し上げます。

#### 記念すべき節目の第10回に、鼓笛OB・OGによる鼓笛演奏出演

(演奏に合わせて合唱もあり)を計画し、これに向けて下記要領のもと、

練習・打ち合わせ・懇親の会 を行わせていただきます。

#### 記

第1回会議(練習) 2009年

5月23日(土) 17:00 集合 } 1泊2食  
 ~ 24日(日) 11:00 解散

第2回会議(練習) 2009年

10月3日(土) 17:00 集合 } 1泊2食  
 ~ 4日(日) 11:00 解散

遅刻・早退  
 可能です。

会場 (いずれも) 笠岡大教会

会費 2,000円

持参品 (あればの話ですが)「当時の各自楽器」や「古い楽器(例えば、縦型ベルリラ・梅鉢入りスネアドラム)」

演奏曲目 (こどもおぢばがえりテーマソング: 下記より2曲を選択予定)  
 みちのこみんなすばらしい (昭和39年~40年 テーマソング)  
 燃える元気なみちの花 (昭和41年 テーマソング)  
 みんなでつくろう少年会 (昭和42年~44年 テーマソング)

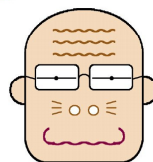
#### お願い

※参加ご希望の方は、下記へFAXまたはお電話お願いします。

\*岡山教区 鼓笛OB 森本重吉

FAX:0865-44-5194

携帯:090-9065-6861(AM6:00~PM8:00頃)



ました。女子青年で頑張っておられる方、息子さんの介護して頑張っておられる方、ご主人の病気と共に頑張っておられる方、教会で頑張っておられる方、いろいろお話を聞かせて頂き、自分はどうなのか。ただ逃げ出しているだけではないのかと考えさせて頂く事ばかりでした。

真柱様、会長様より「家庭の台、教会の台とな

りましょう」とおっしゃられていた事を思い出しました。私は家庭の台となれているのでしょうか。今はまだ答えは出ていません。

今回婦人会総会に参加させて頂き、今までおぢばをさけて来ましたが、もう一度、時間を見つけ、本部に参拝をし、親神様、教祖とゆっくり話をし



私がタンザニアのドリームチームに入るきっかけとなったのは、ある日、学生会でひのきしんをしている最中に携帯に電話がかかり、見ると相手は志郎さん。たわいもない話からはじまり、次にでた言葉が「海外布教に興味ないかな?」でした。私の兄が、いまケニアで布教活動をしているので、私自身も若いうちに1回は海外布教なんてことしてみたいなぁと思った矢先のことでした。私は真っ先に「めっちゃめっちゃあります!」と答えました。この会話がそもそもの始まりでした。行き先はアフリカのタンザニア。「たんざにあ?」:初めて聞く国の名前でも最初、頭がぼかるとしました。調べてみると、発展途上国で、数々の有名な感染症が潜むちょっと危ないような感じで書いてありました。予防接種を受けないと、下手したら命を落としかねないような国です。過去の前例がないために警戒心はかなりありました。とにかく生きて帰ってこよう! これしか考えられませんでした。

そして、いよいよ出発の日。笠岡詰所で支度を整え、みなさんからのあたたかい送迎を受けながら、詰所をあとにし、関西空港からタンザニアへと出発しました。18時間のフライトを経て、タンザニアのダル・エス・サラーム空港に到着。2月でしたが、気温は35℃。こどもおぢばがえり並みでした。着くと、去年の12月によぶぼくになられたマユンガさんが私たちを迎えてくれました。マユンガさんの車にのって家まで向かう道中、あたりを見回すと約90%の割合で日本製の中古の車が走っていました。そのうちの8割がトヨタです。「世界のトヨタ」をこの時改めて感じました。車の利用数が非常に多かったことが、少し不思議な感じでした。それに、中古車と言っても日本人から見たらポンコツといえるくらいボロボロの車が走り、マフラーから黒煙が出ている車もありました。それぐらい、廃車寸前まで使おうとする精神がすごかったです。ただ、窓を開けると排気ガスの量が異常なほど多く、匂いも強烈でした。大きな道はアスファルトで平坦な道でしたが、少し道を外れると、大きな溝がいくつも並び、そして雨がふったあとによりカチカチにかたまった土の道が広がっていました。穴を埋めようにも土がかたまっていました。家に着くと、ディナーの用意がされていました。私のアフリカのイメージとしては、虫や食べたことのない動物の肉を食べるのかと思っていました。しかし、出てきたのは白米や豚肉の煮込み料理、パスタ、煮豆、フルーツ(マンゴー、バナナ、パイナップル)など日本人から見ても豪華な料理がずらりと並んでいました。ここで初めて知ったのが、現地ではバナナは緑のときはおかず





城見小学校からの文具を子供達に手渡す



近所でおさづけ

用に、黄色だったらデザートというふうに使って分けていました。緑のバナナは酸味のきいたポテトのような味でした。

マungaさんの所属する団体は、親のいない孤児を収容する孤児院を受け持ち、施設をバックアップしていくところで、マungaさんは15人ほどいるスタッフを引っぱっている、いわばボスの存在のお方でした。一緒にいるときでも、電話の鳴る回数は半端じゃなかったです。

そして、いよいよ孤児院を訪れるときがきました。着くと、約300人もの子どもたちが集まるやいなや「カリブ・サーナ、カリブ・サーナ(ようこそ、という意味)」と唄いながら私たちを歓迎してくれました。そして、私たちのために練習した、宴やアクロバティックなダンスを披露してくれまし

てきました。その素直さがとても印象的でした。

孤児院をまわっているときに思ったのが、できれば一人一人におさづけをとりがせていただきたいという願望でした。オレス(マungaさんの受け持つ団体)の方にそのことを伝えると、とてもじゃないがこんな大人数相手に無理だと言われました。というのも向こうの方は、どんな宗教かはわからなくとも、こういう救済方法があると聞けば、なんの疑いもなく、自分たちから「やってくれ」と強く希望するのです。それでもなんとか出来ないかと思ひ、まわった孤児院のなかで、おさづけについて話をしてみると、約60人の子どもや大人の方が集まり、これくらいなら出来るだろうと、オレスのスタッフと相談し、ついに実行することができました。スタッフの方には、通訳をし

た。その気持ちに感謝し、私たちもこの孤児院と孤児1人1人の健康と繁栄を願ってよろづよ八首をつとめさせていただきました。つとめている姿を見る子どもたちの目は真剣でした。セレモニーが終わり、帰ろうとすると子どもたちがわたしたちを取り囲み、握手を求め

てもらい、名前と年齢とどこが悪いのかを英語にして教えてもらいました。ある程度年齢がいつている方だと、自分の年がわからないという方がほとんどでした。あと、とりついでいて気づいたのが、年齢に関係なく、腹痛をうったえる方が非常に多かったことです。その原因は、やはり食べ物や水などの衛生面からくるものでした。私たちがホームステイしたところでも、毎回の食卓で市販のミネラルウォーターがだされていましたし、豚肉や鶏肉料理でも十分な加熱をしないと、肉の中の菌が体内に入っておなかを壊す原因になるからです。私自身も、キリスト教の病院を訪れた際にだされた魚料理をいただいたとき、焼き魚ではありましたが30分もたたないうちに蕁麻疹が全身に発症しました。それくらい衛生面に関しては、気を配らないと体がもたないと感じました。話はどうって、約1時間を使っておさづけに没頭し、3人で60人ほどの方にとりつがせていただきました。これも、日本ではまず経験できないことだと実感しました。

孤児院のほかにも、中学校にも訪問しました。ここでも歓迎され、ちょっとしたお芝居を披露してくれました。その内容は、学校に遅れてきた生徒に先生が怒り、その理由を言っていくという感じでした。一人目は男の子で、家から学校までが遠すぎて遅れたというものでした。聞くと、距離は

片道10キロ。往復で毎日20キロ以上を歩いているとのことでした。その道のりも平坦ではなく、アップダウンの激しい山道みたいなものだということです。2人目は女の子で、見るとおなかが妊婦のようにふくれあがっていて、話を聞くと、学校に行く途中にレイプされ、子どもができたということでした。ほかにも、麻薬の取引を強要されたりするなど、その場ではおもしろおかしく表現していましたが、事実であり、これが原因で学校をやめざるを得ない生徒が、約3分の1を占めていました。この問題は、現在でも絶えず行われ、深刻な状況となっているそうです。日本では考えられないようなことが、今のアフリカでは実際に起こっていることを知り、現実を受けとめることが悲しかったです。

最初にも言ったように、アフリカのほうではエイズや結核などの有名な感染症が日本よりもはるかに蔓延しているといえます。とくにエイズは性行為による感染がほとんどです。そのため、路上のいたるところで避妊宣伝の看板が立ち並び、感染防止を呼びかけている努力をしていますが、現状はそう簡単にはよくなってはいません。そのため、エイズ感染者が子どもを産み、その子どもが幼いころからエイズを発症し、免疫力が低下すると同時に、結核などの病気までも発症してしまい、やがて死に至るといふケースがかなり多いそ

うです。アフリカのほうでは、こうした幼い子どもたちが数多く亡くなっているため、平均寿命も40歳ちょっとということも、これが一番の原因です。正直言って、健康な状態を保っているという人は、ほんとうにごく少数の人たちだけです。それにくらべて、私たち日本人の生活というものは、水だったら使えるだけ使い、食べ物だったら食べたいだけ食べるというのが当たり前の環境の中で暮らしていることがアホらしく感じます。同じ地球上に住む人間なのに、こんなにも差のある暮らしをしている人がいるんだということを知ると、このままでいいのかと考えさせられます。毎日病気に苦しむ人、病院に行きたくてもお金がない。かといって、病院の設備は日本人のわたしから見たらはつきり言って、清潔感もなく、医療器具もそろっていない状況でした。まだまだ行き届いていないところはたくさんありました。

今回のタンザニア訪問を通して、私自身は布教・伝道という形で行かせていただきましたが、逆に教えられたことがほとんどでした。イメージもだいぶ変わりました。世界

のニュースなどを見ると、普通だったら敬遠するような国ですが、実際に行ってみると私たち日本人だからこそ気づかされる要素がたくさん詰まったところだと感じました。天理教は、陽気ぐらし世界実現を目的として私自身も信仰していますが、向こうの方々は、たとえ生活は貧しくとも、一人ひとりが明るい心を持ち、他人を思いやる気持ちを持つ人がほとんどでした。むしろ貧しい生活をしているからこそ、お互いに扶けあって生きていこうという精神が自然と生まれてくるのではないかと思わせていただきました。機会があれば、またぜひとも、タンザニアに行きたいと思っています。ありがとうございました。

(米府分教会 三代 拓己)



マトゴロ孤児院でのおさづけの後



よろづよ八首を真剣に見る子供達

## 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の絶え間ない御守護と自由のお働きによりまして

日々の生活を恙なく結構に過ごさせて頂いております事は

誠に有難く勿体ない極みでございます かしながら多

くの人々はその理を知らず我が身勝手に心を使い気

付かぬ内に他人の心を傷つけるばかりでなく 我が心

をも傷つけ 気付けば身上や事情に苦しまねばなら

ない陰気ぐらしの世の状へと落ち込んでおりますし

たが「このみちをはやくみとふてせきこんだ

さあこれからはよふきつくめや」と天保九年十月

教祖を月日の社とお定めになるや 次々と人をお寄

せになり 陽気ぐらしへと向かうこれのたすけ一条

の道をお付け下さいました お寄せ頂いた私共は

日々朝夕に御礼申し上げますと共に 一人でも多くの

と陽気ぐらしへの歩みを進めたいとつとめとさづけを通

して たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いておりま

す また先日十八日は教祖の二百十一回目の御誕生日に当たり

お互い未信の人も誘いあわせておちばへ帰らせて頂き 教祖にお祝いを

申し上げ 喜びを分かち合い 改めてひながたを辿るお誓いを申し上げます

て頂きました  
そんな中 今日の日吉日はこれの笠岡の理にお許し下さいました御祭日で

ございますので おつとめ奉仕者一同 たすけ心喜び心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて 四月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には教祖御誕生祭並びに婦人会総会後の慌ただしさも厭いませず

今日の日を楽しみに寄り集いました理に繋がる道の子供達が相共

にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げます 尚も

変わらぬ親心にお縋りする状を御覧下さいまして 親神

様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて立教百七十二年の今年も三分の一が過ぎようと

している今 新年度が始まった今 改めて年頭の心

定めに思いを致し 新たな気持ちで成人の歩みを進

めさせて頂くべく 来月は直轄巡教をさせて頂き

共々に歩みの再確認をし励まし合いたいと存じま

す 又おちばからの天理時報普及活用との声に添

うべく 全よふぼく家庭で天理時報が読まれるよ

う力を注いで行く所存でございます

更にはまた来年の婦人会の創立百周年に向けて 婦

人会の活動が活発になってまいりました その活動を

教会活動と大きく捉え よふぼく信者の丹精や にをい

がけにと繋げて行く所存でございます

何卒親神様には旬々にお聞かせ頂く親の声に添いきる皆の誠

真実の心をお受け取り下さいます 世界一列たすけたいとの親の思い

が一人でも多くの人に伝わり お互い助け合ってお望み下さる陽気ぐらし

の世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を 一同と共に慎ん



でお願い申し上げます

大教会だより

辞令

立教172年4月21日付

登用

承事	笹尾正治
准承事	門脇元教
	三代正道
	山田敏教
	赤木素志
	武内清明
	森本忠善
	浅野明教
	内海史郎
おつとめ奉仕者	谷内美知子
	門脇加津

教会指令

◎附属建物屋根葺替願・臨時祭典願

米府分教会  
☆創立百周年記念祭

立教172年11月29日  
立教172年4月18日承認

◎任命願

眞府分教会

*前任	高田弘之
*新任	高田一弘



☆奉告祭 立教172年5月17日

立教172年4月26日承認

計報

高田千鶴子姉

大教会おつとめ奉仕者  
四月七日出直されました。  
享年 九十九才

佐々木滋郎氏

福廣分教会長  
四月十三日出直されました。  
享年 七十四才



3月中旬長年世話になっている植木屋さんが来られた。「明日からやらしてもらいましょか」と言う。え〜！もう1年経ったの？ 後で日記を繰ってみるとやっぱり昨年2月に来てもらっている。一寸この前やったように思うんやけどね。全く「月日は百代の過客にして……」だな。知らず知らず月日は行きこう旅人のごとく過ぎてゆくんだな。ちなみに今まで「つきひはヒヤクダイノカキヤクにして……」と読んでいた。娘に「ハクタイノカカクやで」と言われて恥かいたことがある。さておき五日間の仕事をしてもらった。庭はさっぱりして清々しくなり懐はさっぱりして寒々となった。費用が負担なのでいつか植木屋さんにこう言ったみた。「あの〜2年に一回やったらどうかなあ？」するとすかさず「庭

が壊れまっせ」と言う。体をなさないと言う。ほんまやろか？ 過ぎるのが早いのは物事もそう。3月26日月次祭の帰り、大和西大寺駅で「難波行き」を待っていると入って来た電車が、何と「尼崎」の行先を表示している。そうや阪神・山陽の電鉄線に近鉄、南海の乗り入れが始まっているんだなあ。何か「尼崎」がしっくり胸に治まらない……。治まる頃にはまた別のことが始まっているのか。「ゆく川の流れば絶えずしてしかもこの水にあらず……」か。様々な言葉や文が、浮かんでは消え消えては浮かぶ。「酔生夢死……」の言葉が浮かんできた。正に酔って生きているな。しかし夢死は避けたい。何をしてもなく目的も持たず一生を無為に終えることとネットに書いてある。毎日の出来事にとらわれて、漫然と生きるような人生を戒めたものであるとも。なんや、正に自分のことやないか。”沈黙考“ばかりせずに、会長として動こう。月日の如く、物事の如く、川の流れの如く……。 (ひ)